

東日本大震災から4年間の想い、 “幸せな帰町・復興”へ向けて



東日本大震災によって今日に至るまで尊い命を亡くされた皆さまのご冥福をお祈り申し上げます。現在において避難生活を余儀なくされている皆さま、復興への厳しい道のりにあって、『念ずれば花ひらく』…すべてにおいて、一所懸命念ずるように努力すれば必ずから道は開ける…この言葉に力をもらい、困難に立ち向かう取り組みを通して希望がかなうことを日々念じ

ております。

平成23年3月11日、広野町を襲った震度6弱の激しい揺れと推定9メートルの巨津波により多くの家屋が倒壊・流失し、道路や上下水道が寸断されました。原子力災害による大混乱の中でふる里・広野町を後にして、お互いに支え合い避難所での厳しい生活を乗り越え、今、私たちは4度目の春を迎え復興への歩みを着実に進めております。4年間を振り返りますと、全国の皆さまから寄せられたご支援に幾度となく胸が熱くなったことが心に蘇り、たくさんの方の感激を被災地広野町へ運んでくださった皆さまへの感謝の念に堪えま

せん。これまでに皆さまと結ぶことができました大切な『絆』を支えに、幸せな帰町・復興“に全身全霊を傾けてまいりたいと存じます。

広野町は平成23年9月30日に「緊急時避難準備区域」が解除され、翌年の3月1日には役場機能を町内に戻し、それからちょうど3年となる先日、平成27年3月1日に、東京と仙台を結ぶ常磐自動車道が全線開通いたしました。常磐自動車道の全線開通は震災以前からの悲願であり、『未来を拓く、命をつなぐ希望の道』の開通として、双葉地方・浜通り、太平洋沿岸に新しい時代の到来を告げま

した。復興へ向けインフラ整備などが着実に進んでいく中、一方では「風化」が危惧されておりますが、忘れるべきではない大事なことをしっかりと胸に刻み、常に前向きな気持ちで「希望」へ向かって進み続けていくことが重要だと考えております。

町に戻り生活を再開された方々、あるいは戻りたいという願いを持ちながらも町を離れた生活が続く方々が共に願う「希望」とは、ふる里・広野町で震災前の生活を取り戻すことであり、昨年・平成26年末に、

『全町民の皆さま

幸せな帰町・復興

に向け

ふる里にて共に歩
みたいと願ってお
ります。』

というメッセージを発信いたしました。

この願いをかなえていく

ために、本年1年間を「ふ

る里復興・再生「成長の年」として位置づけ、希望に向けてまいりました種々大きな実を結ぶように、一歩一歩着実に復興への歩みを進めてまいります。これから「イノベーション・コースト構想/15市町村」や「12市町村将来像」といった施策などが進んでまいります。双葉地方の広域的な復興を念頭に全体を俯瞰し、復興の拠点としての役割を果たしてまいりたいと考えております。「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」という吉田松陰の言葉がありますが、夢を持つことの大切さを忘れず、夢を持つことの大変さを見しめ、継往開来、ふる里の歴史を守り、世界に誇る「ふる里・広野町」を創造し、

ております。

桜咲く来月には、「ふたば未来学園高等学校」の生徒たちの新たな生活が広野町で始まります。全町民の皆様と心一つに生徒たちを温かく迎え入れ、国・県、双葉8か町村が一体となって、未来を担う生徒たちが夢と希望を持って安心して学習できる環境を整えてまいります。今、まさに5年目の歩みが始まりますが、幸せな帰町・復興“へ向けて、一層のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

平成27年3月11日

広野町長

遠藤 智